

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公表番号】特表2001-526535(P2001-526535A)

【公表日】平成13年12月18日(2001.12.18)

【出願番号】特願平10-546989

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 38/27

A 6 1 K 39/395

A 6 1 P 19/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 K 14/475

C 0 7 K 16/22

C 1 2 P 21/08

G 0 1 N 33/15

G 0 1 N 33/50

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 19/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 0 7 K 14/475

C 0 7 K 16/22

C 1 2 P 21/08

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/36

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月30日(2005.3.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年3月30日

適

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第546989号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 ニューヨーク 10591-6707,
タリータウン, オールド ソー ミル リバー ロード 777

名称 リジエネロン ファーマシューティカルズ, インコーポレイテッド

3. 代理人

住所 〒540-6015 大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号
クリスタルタワー15階

氏名 (7828) 弁理士 山本 秀策



電話 (大阪) 06-6949-3910



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。

審査官
○

請求の範囲

1. ヒトケルベロスをコードする単離された核酸分子。
2. 請求項1に記載の単離された核酸分子であって、以下：
 - (a) 配列番号1に記載のヒトケルベロスのコード領域を含むヌクレオチド配列；
 - (b) 該(a)のヌクレオチド配列にストリンジエント条件下でハイブリダイズし、かつヒトケルベロスの生物学的活性を有する分子をコードする、ヌクレオチド配列；または
 - (c) 遺伝コードの縮重がなければ、(a)または(b)のヌクレオチド配列にハイブリダイズし、そしてヒトケルベロスの生物学的活性を有する分子をコードする、ヌクレオチド配列、
からなる群より選択された配列を有する、単離された核酸分子。
3. 請求項1または2に記載の核酸分子を含む、ベクター。
4. 前記核酸分子が、宿主細胞においてその発現を指向し得る発現制御配列に作動可能に連結される、請求項3に記載のベクター。
5. プラスミドである、請求項3または4に記載のベクター。
6. ヒトケルベロスの生物学的活性を有する、単離されたヒトケルベロスタンパク質、またはそのフラグメントもしくは誘導体。
7. 配列番号2に記載のアミノ酸配列を有する、単離されたヒトケルベロスタンパク質。

8. 宿主細胞中に請求項3または4に記載のベクターを含む、ヒトケルベロスの產生のための、宿主一ベクター系。

9. 前記宿主細胞が、細菌細胞、酵母細胞、昆虫細胞、または哺乳動物細胞である、請求項8に記載の宿主一ベクター系。

10. ヒトケルベロスを產生する方法であって、該ヒトケルベロスの產生を可能にする条件下で、請求項8または9に記載の宿主一ベクター系の細胞を増殖する工程、およびこのように產生した該ヒトケルベロスを回収する工程を包含する、方法。

11. 請求項6または7に記載のヒトケルベロスに特異的に結合する、抗体。

12. モノクローナル抗体である、請求項11に記載の抗体。

13. ポリクローナル抗体である、請求項11に記載の抗体。

14. 請求項6または7に記載のヒトケルベロス、およびキャリアを含む、組成物。

15. 請求項11、12、または13に記載の抗体、およびキャリアを含む、組成物。

16. ヒトまたは動物体の処置の方法における使用のため、または診断の方法における使用のための、請求項6または7に記載のヒトケルベロス、請求項11、12、または13に記載の抗体、あるいは請求項14または15に記載の組成物。

17. 請求項10に記載の方法によって產生される、ポリペプチド。

18. 免疫グロブリン定常領域に融合したヒトケルベロスを含む、リガンド体。

19. 前記免疫グロブリン定常領域が、ヒトIgG1のFc部分である、請求項18に記載のリガンド体。

20. ヒトまたは動物体の処置の方法における使用のため、または診断の方法における使用のための、請求項18または19に記載のリガンド体。

21. 骨形成タンパク質（BMP）の機能と拮抗するための組成物であって、ヒトケルベロスを含む、組成物。

22. 前記BMPが、BMP2またはBMP4である、請求項21に記載の組成物。

23. 動物のBMP関連障害の処置における使用のための、請求項21または22に記載の組成物。

24. ヒトの処置のための、請求項23に記載の組成物。

25. 前記BMP関連障害が、異常な骨成長である、請求項24に記載の組成物。

26. 前記BMP関連障害が、進行性骨化性線維形成異常症（FOP）である、請求項24に記載の組成物。

27. 前記異常な骨成長が、股関節置換手術後に発生する、請求項25に記載の組成物。

28. 前記異常な骨成長が、外傷、火傷、または脊髄損傷後に、あるいは転移性前立腺ガンまたは骨肉腫と関連して、発生する、請求項25に記載の組成物。

29. BMPへの結合についてヒトケルベロスと競合し得る分子についてスクリーニングする方法であって、

- a) ヒトケルベロスが該BMPに結合し得る条件下で、該ヒトケルベロスの存在下で、該分子を含む疑いのある試料を該BMPと接触させる工程；および
- b) 該分子の該BMPへの結合を検出する工程、
を包含する、方法。

30. 前記BMPが、BMP2またはBMP4である、請求項29に記載のアッセイ。